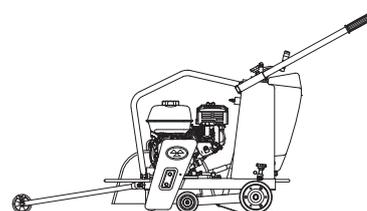


Mikasa

コンクリートカッター

MCD-L12H

MCD-L14H



取扱説明書

ja

三笠製品をお買い上げいただきありがとうございます。
ご使用前に本書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に保管してご利用ください。



<http://www.mikasas.com>

601-02805



目 次

1	はじめに	1
2	機能概要	1
3	警告サイン	1
4	安全のための注意事項	2
	4.1 一般的な注意事項	2
	4.2 給油中の注意事項	2
	4.3 使用場所、換気に関する注意事項	3
	4.4 作業前の注意事項	3
	4.5 作業中の注意事項	3
	4.6 リフティング時の注意事項	4
	4.7 運搬と保管に関する注意事項	4
	4.8 整備上の注意事項	5
	4.9 ラベルの取付位置図	5
	4.10 ラベルリスト	5
	4.11 ラベルの取付位置	6
5	外観図	7
	5.1 外観寸法	7
	5.2 コントロール装置位置及び操作名称	8
6	仕様	9
	6.1 本体	9
	6.2 ダイヤモンドブレード	9
	6.3 エンジン	9
7	運転前の点検	10
	7.1 エンジンオイル	10
	7.2 燃料	10
	7.3 散水関係	10
	7.4 Vベルト	10
	7.5 ダイヤモンドブレードの取付方法	11
	7.6 機体の昇降方法	11
	7.7 駐車ブレーキ	12
	7.8 切削深さの読取方法	12
8	運転	12
	8.1 始動	12
	8.2 作業	13
9	停止	14
10	輸送	15
	10.1 積み降ろし	15
	10.2 運搬	15
11	保管	15
12	定期点検と調整	16
13	トラブルシューティング	17
	13.1 エンジン	17
	13.2 本体	18

1. はじめに

- この取扱説明書は、コンクリートカッターの正しい取扱方法、簡単な点検及び手入れについて記載してあります。本機の優れた性能を生かし、お仕事の能率を上げ効果的な作業を進める為に、**ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。**
- お読みになった後も**必ずお手元に保管**し、分からない事があった時には取り出してお読みください。
- エンジンの取扱に関しては、別途**エンジン取扱説明書**を参照してください。
- 補修部品、パーツリスト、サービスマニュアル及び修理に関しては、販売店・当社各営業所もしくは三笠部品サービスセンターにお問い合わせください。なお、パーツリストは当社ホームページの三笠WEBパーツリストで公開しております。是非ご利用ください。
ホームページアドレス：<http://www.mikasas.com/>

2. 機能概要

用 途

ブレード軸にダイヤモンドブレードを装着し、コンクリート及びアスファルトの路面を切断する機械です。切削する深さに応じた機体で、コンクリートやアスファルトの材齢・コンクリート内の鉄筋の有無等、切削する状況に合わせたブレードを選択して使用します。

無筋コンクリート、鉄筋コンクリート及びアスファルト以外の切断には使用してはいけません。土砂を切断してはいけません。土砂が飛散し外傷の危険があります。本機はダイヤモンドブレード専用で、原則として複数枚同時に使用することはできません。また、レジノイドブレードを使用してはいけません。必ず注水しながら切削して下さい。ブレードの膠着やブレードチップの飛散等が発生し危険です。ブレードに合った回転数以上で使用してはいけません。ブレードの膠着やブレードチップの飛散等が発生し危険です。機体が不安定な状態での使用及び不整地での使用は、ブレードの膠着やブレードチップの飛散等が発生しますので使用してはいけません。コンクリート二次製品等の切断に使用しないで下さい。

構 造

本体ベース上にエンジンが固定され、Vベルトで動力をベース下部のブレードシャフトに伝えます。ベルトの張り調整は、エンジンを前後にスライドさせる方式です。ベースにはベルトカバー、ガイドハンドル、ブレード昇降調整用のハンドル並びに脱着可能なブレードカバーが取り付けられています。切削深さの調整はブレード昇降ハンドルを回し、前車輪を取り付けたアームを起伏させて行います。走行は、本機を直接押す方式です。

動力伝達

原動機は4サイクル空冷単気筒ガソリンエンジンです。エンジン出力軸にはVプーリーが取り付けられており、Vベルトを介してブレード軸を駆動します。ブレード軸にブレードを取り付けて切削を行います。切削深さの調節はブレード昇降ハンドルを回し、前車輪を取り付けたアームを起伏させて行います。切削時の走行は、ハンドルを押して行います。

3. 警告サイン

本取扱説明書および機械に貼付けてあるラベルの  マークは警告サインです。安全上、必ず厳守してください。

	人体に対する危険がある場合
 危険	指示を守らないと、死亡または重大な傷害事故が生じる危険が極めて高い場合
 警告	指示を守らないと、死亡または重大な傷害事故が生じる危険があり得る場合
 注意	指示を守らないと、怪我や傷害事故が生じる可能性がある場合
注意	指示を守らないと、物的な損害が発生する可能性がある場合

4. 安全のための注意事項

4.1 一般的な注意事項

警告

- こんな時は作業をしない。
 - 過労や病気などで体調が悪いとき。
 - 医薬品や薬物を服用したとき。
 - 飲酒をしたとき。

注意

- 取扱説明書をよくお読みいただき正しい取扱いで安全に作業をしてください。
- エンジンの取扱いは別紙エンジン取扱説明書を参照してください。
- 機械の構造を充分理解してください。
- 作業開始前点検、定期自主検査、特定自主検査を確実に実施してください。
- 作業を安全に行うために防護具（ヘルメット、保護靴等は規格品をご使用願います）を着用し、適切な作業服で作業してください。
- イヤーマフまたは耳栓などの騒音保護具を必ず着用してください。
- 常に機械を点検し正常である事を確認してから運転してください。
- 機体の貼り付け銘板（操作方法、警告銘板等）は安全を守るために非常に重要です。本機を清掃し、常に読みやすくしておいてください。読み取りにくくなった場合は、新しい銘板に貼り替えてください。
- 幼児等が触れると危険です。保管方法、保管場所には十分に注意してください。特にエンジン始動用キーは、必ず作業終了後にキーを取り外し所定の場所で保管してください。
- 整備する場合は必ずエンジンを停止し、燃料を全て抜いてください。
- 製造元が許可していない改造が原因で起こる事故に関しては、弊社は一切の責任を負いません。



4.2 給油中の注意事項

危険

- 燃料を給油する場合は、必ず換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給する時は必ずエンジンを停止して、エンジンが冷えてから行ってください。
- 燃料を補給する時には、周囲に可燃性がない平坦な場所を選び、燃料をこぼさないように注意してください。こぼれた場合は良く拭き取ってください。
- 燃料の補給中は火気を絶対に近づけないでください。（特にタバコの喫煙には注意してください）
- 燃料タンクの口元まで燃料を入れると、こぼれる可能性があります。
- 給油後は、タンクキャップをしっかりと締め込んでください。



4.3 使用場所、換気に関する注意事項

⚠ 危険

- 室内、トンネル内等換気の悪い場所では使用しないでください。エンジンの排気ガスには、有害な一酸化炭素等が含まれていて大変危険です。
- 火気の近くでの運転はしないでください。



4.4 作業前の注意事項

⚠ 注意

- 各部分の締付具合を点検してください。振動でネジが緩んでいると思わぬ大きな故障の原因となります。ネジはしっかりと締め付けてください。
- ダイヤモンドブレードにブレードチップの欠損や基板のひび割れ等の異常が無い事を確認してください。
- 3か月以上エンジンを動かしていない場合は、油膜切れによる機体摺動部の焼き付きを防ぐ為に、低速で十分に暖気運転を行ってください。

4.5 作業中の注意事項

⚠ 注意

- 機械を始動したり作業する時は、周囲(人や障害等)の安全を確認してください。
- 常に足元に注意し、機械のバランスが保てる無理の無い安定した姿勢で作業してください。
- エンジン本体、マフラーは高温になりますので、運転時および運転直後等の熱い時には触れないように注意してください。
- 運転中に機械の調子が悪くなったり、異常に気付いた場合は直ちに本機を停止させて作業を中止してください。
- エンジン始動と同時にダイヤモンドブレードが回転しますので充分気を付けてください。特に足等を近付けないでください。
- エンジンが動いている時は、低速運転でもダイヤモンドブレードは回転しています。作業していない時は必ずエンジン停止してください。
- 本機から離れる場合や移動させる時は、必ずエンジンを停止させ燃料コックを閉じてください。
- ブレードカバーは必ず装着してご使用ください。
- 回転部(ベルトカバー内等)には手や服等を巻き込まれないように充分注意してください。



⚠ 危険

傾斜地での注意事項

本機を傾斜地で使用する場合、様々な危険が伴います。最低限下記の項目を厳守した上で、更なる安全確保に努めてください。安全を確保できない場合は絶対に使用しないでください。

- 傾斜地では本機を放置しないでください。万一本機が動き出すと重大な事故を引き起こす危険性があります。
- 傾斜地では、ハンドルをしっかりと握り、決して本機から手を離さないでください。手を離れた瞬間に本機が自重で動き出し、重大な事故を引き起こす危険性があります。
- ハンドルからグリップが抜けると本機が暴走する危険性がありますので十分に御注意ください。
- 傾斜地で作業する際は、必ず本機に対し斜面の上側に位置し、斜面に対して本機が真っ直ぐ下を向くようにして作業を行ってください。

危険

傾斜地での注意事項

- 本機は平坦な場所で停止させてください。止むを得ず本機を傾斜地に停止させる場合は、必ずエンジンを停止させた上で本機を真っ直ぐ下向きにし、安全確保のために前車輪に必ず輪止めをしてください。前輪に輪止めをかけても、前後や左右に揺さぶられたりしますと本機は輪止めを乗り越え動き出す可能性が高く大変危険ですので御注意ください。**駐車ブレーキは本機の確実な固定を保証する物ではありません。停車の際は必ず前輪に輪止めを御使用ください。**
- 輪止めをする際、本機の前側には絶対に行かないでください。万一本機が動き出した場合は、ブレードによる身体の切断や本機の衝突により大怪我や死亡に至る危険性があります。
- 輪止めをする際、ブレードが手に触れますと大怪我をする恐れがあり大変危険です。必ず本機のベルトカバー側から輪止めをしてください。
- 停止の際、水タンクに水が入っていますと重心が高くなりバランスが悪くなる為、前輪に輪止めをかけても前輪が輪止めを乗り越えて動き出し大変危険です。この場合必ず水タンクから水を抜いてください。
- 傾斜地において路面が濡れていますと、角度によっては輪止め自体が滑り効果が無くなります。止むを得ず傾斜地で停止させる場合は必ず乾いた路面に停止させてください。
- 傾斜地でのブレード取付取外し作業は危険ですので行わないでください。
- 斜面を横断するような作業は行わないでください。本機の転倒やブレードの破損等重大な事故を引き起こす恐れがあります。

4.6 リフティング時の注意事項

クレーンによる積み下ろし作業は資格が必要です。クレーンの運転・玉掛け作業の資格がある人が行って下さい。

危険

- 吊り上げ作業に対し、本機部品(特にフック・防振ゴム)の損傷やネジの緩み・脱落が無く安全である事を確認してください。
- 吊り上げ時はエンジンを停止させ燃料コックを閉じてください。
- 強度の十分なワイヤーロープ等を使用してください。
- 吊り上げ作業は一点吊りフックのみ使用し、その他の場所(ハンドル等)での吊り上げ作業はしないでください。
- 本機を吊り上げた際、下には絶対に人や動物を入れないでください。
- 安全の為に必要以上の高さには吊り上げないでください。

4.7 運搬と保管に関する注意事項

警告

- 運搬時はエンジンを停止させてください。
- 運搬時は必ずダイヤモンドブレードを外してください。
- エンジン及び本機がよく冷えてから運搬してください。
- 運搬時は必ず燃料を抜いてください。
- 本機が動いたり、倒れたりしないようしっかりと固定してください
保管する場合は屋外に放置しないで、必ず屋内かまたは雨水がかからない場所に保管してください。
- 保管時は必ず燃料を抜いてください。さらに、長期間使用しない場合はキャブレター内の燃料も抜いてください。燃料が腐敗してエンジンが故障する場合があります。
- 保管時は必ずダイヤモンドブレードは取り外してください。ダイヤモンドブレードの取付場所であるブレード軸やフランジやナットなどは錆びないように十分に汚れを落とし、水分を取り除いてください。
- 保管後に使用する場合は必ずネジの緩みや脱落が無いかを確認してください。

4.8 整備上の注意事項

注意

- 安全を確保し、本機の性能を維持する為適切な整備が必要です。本機の状態を充分留意し、良好な状態を維持してください。特にリフティング関連部品の不適切な整備は重大事故の原因となります。
- 必ずブレードを外してから作業を行ってください。ブレードに身体が接触しますと、思わぬ怪我をするおそれがあります。
- 本機の温度が下がってから作業を行ってください。特にマフラーは高温になり、火傷をするおそれがあります。またエンジンやエンジンオイル、起振体等も熱くなりますので火傷をしないよう充分注意して下さい。
- 点検調整は、必ずエンジンが停止した状態で行ってください。回転部に巻き込まれて重大な傷害を負う危険性があります。
- 整備終了後、保安部品の取付及び安全性の確認を行ってください。



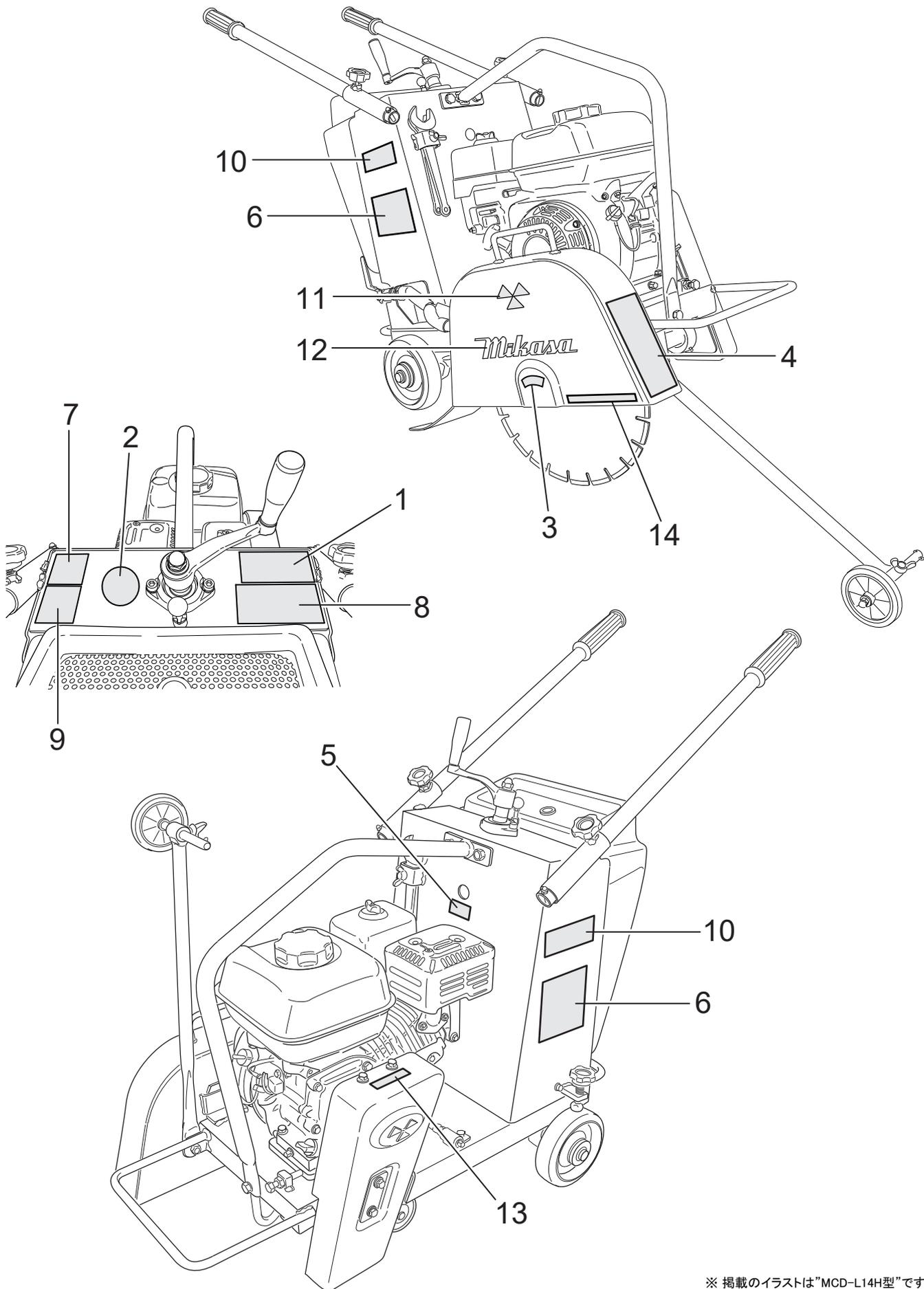
4.9 警告ラベルの絵文字説明

 <ul style="list-style-type: none"> ● 騒音による聴覚障害に注意 本機運転中は、必ず耳栓やイヤーマフラーを着用してください。 	 <ul style="list-style-type: none"> ● 足元危険 本機運転中は、足元に充分注意してください。足をブレードに近づけないでください。
 <ul style="list-style-type: none"> ● 取扱説明書熟読 運転前に必ず取扱説明書をよく読み、操作内容を充分理解してください。 	 <ul style="list-style-type: none"> ● 回転部接触禁止 運転中のブレードなどの回転部分には絶対に手を触れないでください。ブレードカバーなどの部品を外しての運転は絶対に行わないでください。

4.10 ラベルリスト

図番号	部品番号	名称	数量	備考
1	9201-10070	銘板、操作説明図(昇降)/MCD-L12	1	
2	9202-03330	銘板、騒音保護防止	1	
3	9201-04980	銘板、回転方向	1	
4	9201-06980	銘板、足元危険/MCD-210	1	
5	9201-00120	銘板、グリース(貼)	1	
6	9201-09690	銘板、シンボルマーク/MCD-210V	2	
7	9201-08350	銘板、取扱説明書熟読(和文)	1	
8	9201-06630	銘板、取扱注意/MCD-210	1	
9	9201-08360	銘板、回転部接触禁止(和文)	1	
10	9201-10030	銘板、型式ロゴ/MCD-L12	2	MCD-L12H
10	9201-10050	銘板、型式ロゴ/MCD-L14	2	MCD-L14H
11	9202-10960	銘板、三笠マーク(白、40×80)	1	
12	9201-09560	銘板、Mikasa(250白)	1	
13	9202-09730	銘板、ベルトサイズ(RPF-3240)	1	MCD-L12H
13	9202-09810	銘板、ベルトサイズ(3V-265)	1	MCD-L14H
14	9202-10120	銘板、中型カッター用目盛(ブレードカバー)	1	
15	9202-21630	銘板、製番/MCD-L12H	1	MCD-L12H
15	9202-21220	銘板、製番/MCD-L14H	1	MCD-L14H

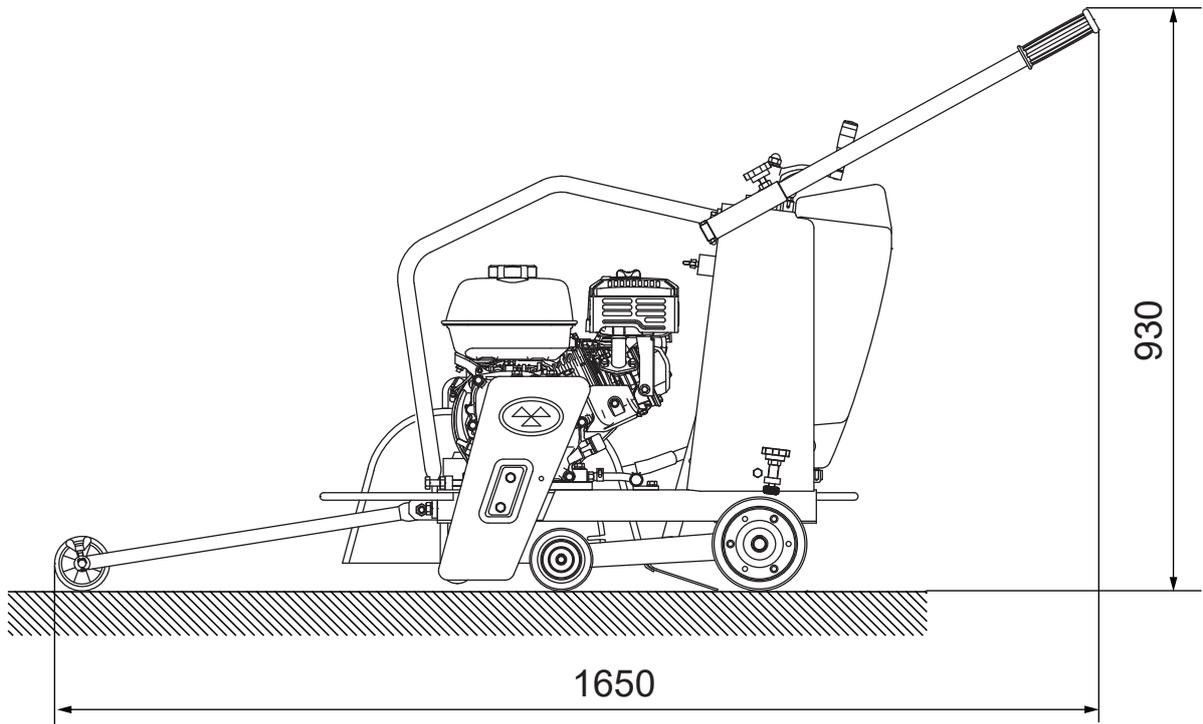
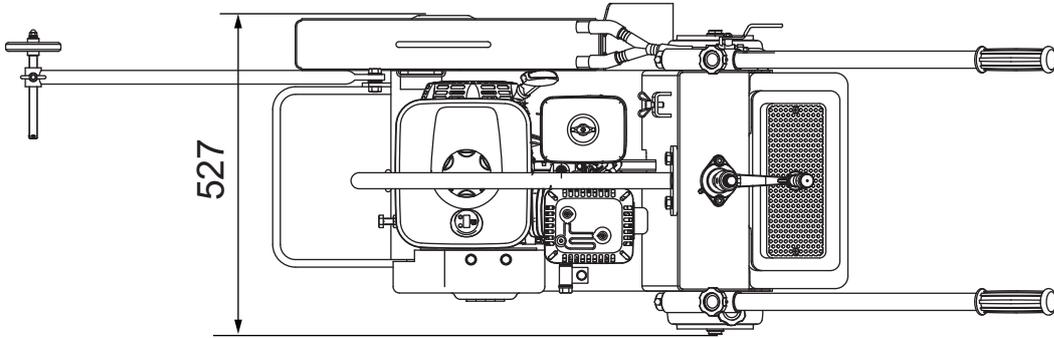
4.11 ラベルの取付位置



※ 掲載のイラストは“MCD-L14H型”です。

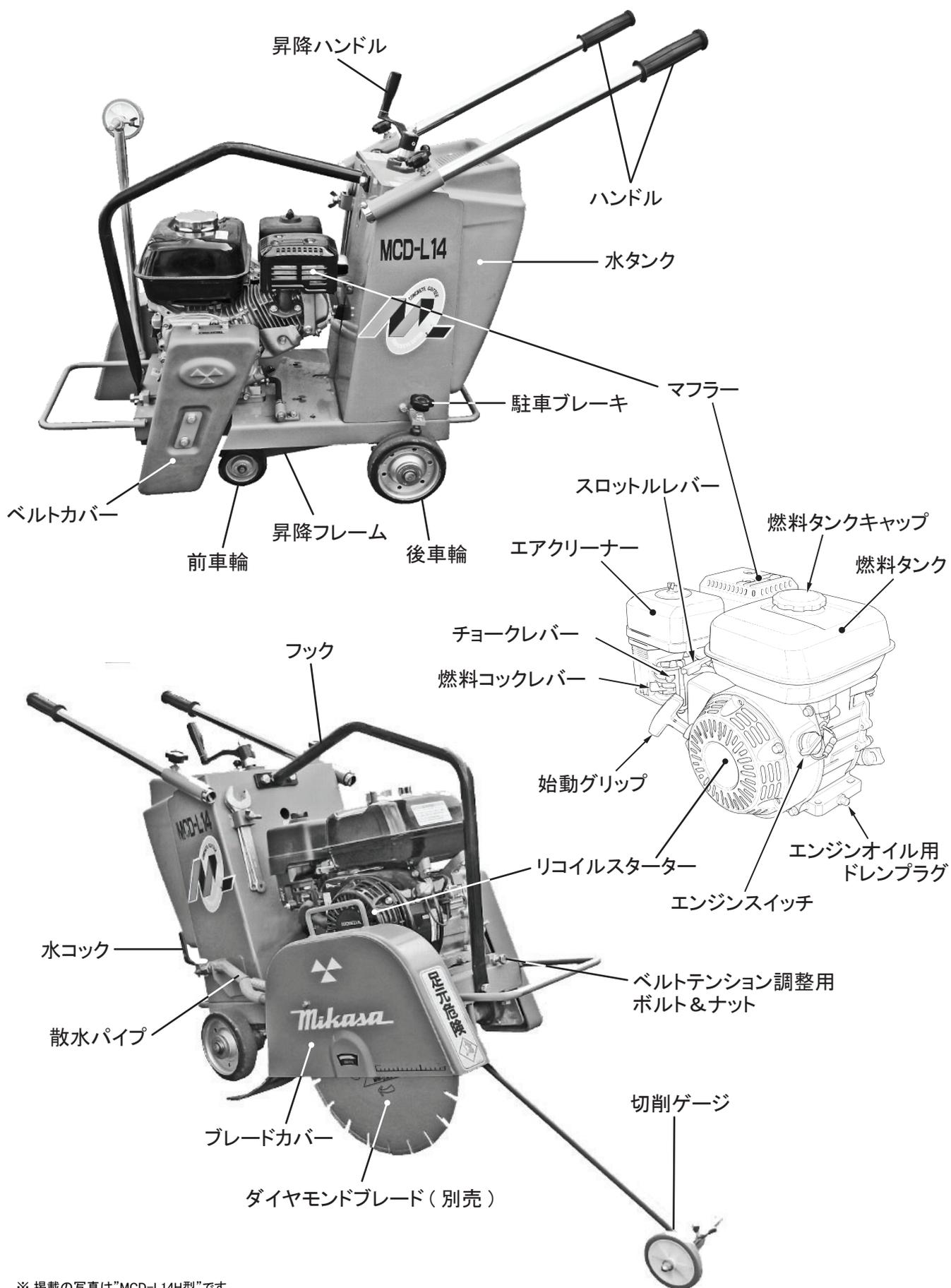
5. 外観図

5.1 外観寸法



※ 掲載のイラストは”MCD-L14H型”です。

5.2 コントロール装置位置及び操作名称



※ 掲載の写真は”MCD-L14H型”です。

6. 仕様

6.1 本体

型 式			MCD-L12H	MCD-L14H
搭載エンジン			ホンダ GX160型	ホンダ GX200型
機体寸法	全長	作業時	1650	
		格納時	1630	
	全高	作業時	930	
		格納時	1080	
	全幅		527	
機械質量		kg	75	81
最大使用ブレード寸法		インチ	12	14
走行方式			手押し式	
切削深度調整方法			手動スクリュー式	
冷却方法			重力注水飛散方式	
水タンク容量		L	26	
ブレード取付軸径		mm	27	

※機械質量は、燃料:タンク容量の1/2、作動油・潤滑油:規定レベル、エンジンオイル:上限レベル、水タンク:空の状態での質量です。

6.2 ダイヤモンドブレード

使用ブレード寸法	外径	最大切削深さ
10インチ(in.)	254mm	70mm
12インチ(in.)	305mm	95mm
14インチ(in.)	356mm	120mm

6.3 エンジン

メーカー名		ホンダ	ホンダ
型式		GX160	GX200
最大出力	kW (PS)	3.6	4.3
		4.8	5.8
始動方法		リコイル方式	
最高セット回転数	rpm	3600	
燃料タンク容量	L	3.6	

製品の仕様は予告なく変更になる場合がございます。

7. 運転前の点検

⚠ 危険

- 点検する時は必ずエンジンを停止してください。
- 平らな安定した場所で行ってください。
- 必ず機体を水平にして行ってください。

- 作業前の点検箇所は13ページに記載されている「各部点検スケジュール表」を参照してください。なお、初回運転前は必ず下記点検項目を全て行ってください。

7.1 エンジンオイル

エンジンを水平にして、オイルゲージにてオイルを点検してください。不足の場合は適時注入口より補充してください。(図1)
 オイルは下記のタイプを使用してください。
 (出荷時は10W-30)
 オイルの品質はSE級以上の物を御使用ください。エンジンオイルの質及び量を低下させると焼付や損傷を招きます。



図 1

	温度	使用オイル (SE 級以上)
夏	25°C以上	SAE#30
春・秋	25 ~ 10°C	SAE#30、#20
冬	10 ~ 0°C	SAE#20
	0°C以下	SAE#10

7.2 燃料

燃料は自動車用無鉛ガソリンを使用してください。燃料の補給時には必ずエンジンを停止させて、注入口に装着してあるコシ網を使用してください。こぼれた場合はきれいに拭き取ってください。(図2)

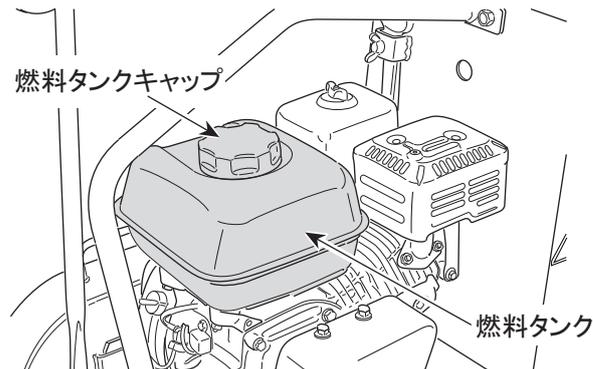


図 2

7.3 散水関係

水タンクに水を入れてください。(容量 26L)
 散水コックを開き、ブレードカバー内の散水パイプから水が出る事を確認します。(図3)

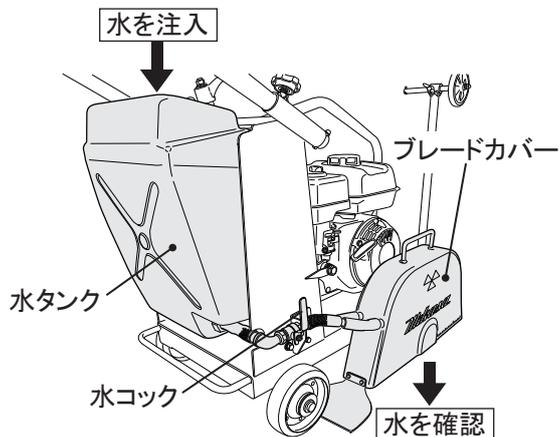


図 3

7.4 Vベルト

● Vベルトの点検

取付けボルトを4本を外します。ベルトカバーを外してVベルトの損傷及び緩みを点検してください。張り具合は両軸の中間部を指で強く押しします。Vベルトが5~10mm位たわむように張ってあれば正常です。(図4)
 張りが不足している場合は調整してください。

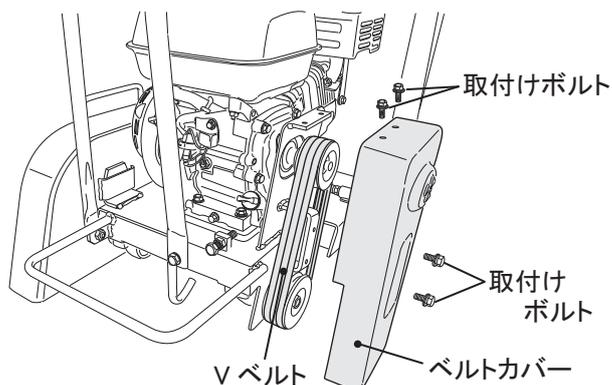


図 4

● Vベルトの調整

ベルトの調整はエンジンを前後にスライドさせて行います。

- ボルト4本を取り、ベルトカバーを外します。(図4)
- エンジン取付ボルト4本を緩めます。(図5)

注意

ボルトは緩めるだけで外さないでください。

- ベース前方にある「ベルトテンション調整ボルト&ナット」でベルトの張力を調整します。右廻り(時計方向)に回すとベルト張力が増します。(図5)

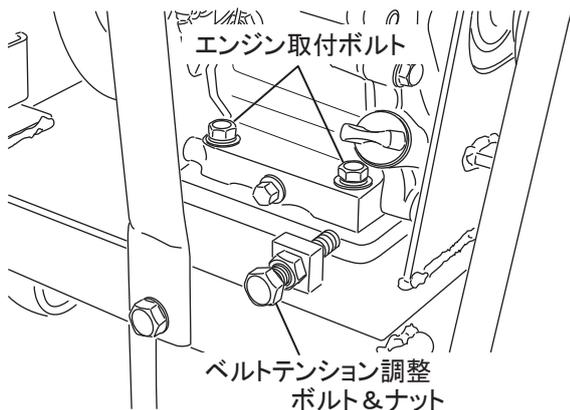


図 5

● Vベルトの交換

交換する場合は2本とも交換してください。

- 前項の「Vベルトの調整」で「ベルトテンション調整ボルト&ナット」で左廻り(反時計方向)に回し、張力がゆるくなった状態でVベルトを外します。
- 新しいVベルトに交換後に、前項の「Vベルトの調整」に従ってVベルトを張ってください。

7.5 ダイヤモンドブレードの取付方法

- 水コック側で散水ホースを外し、ブレードカバーを上方向に持ち上げてブレードカバーを外します。ブレードシャフトにフランジ(内)、ダイヤモンドブレード、フランジ(外)の順に入れます。(図6)

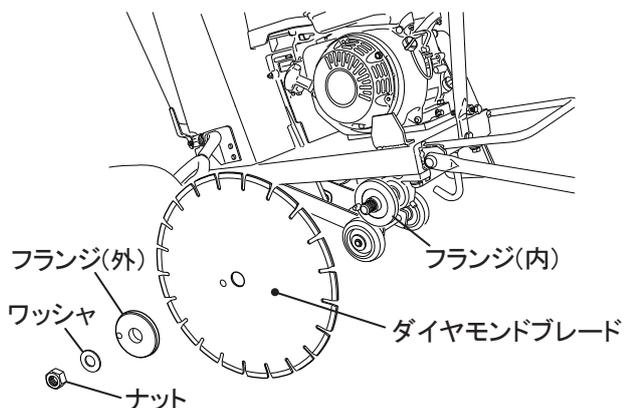


図 6

- ワッシャを付けてナット(左ネジ)で充分締め付けてください。締め付けはL12H型では27mm、L14H型では30mmの付属のスパナを用います。(図7)
- ナット側だけの締め込みではブレード軸が一緒について廻って締付不良になります。ブレード軸の機体下にスパナ用切り込みがあるので、L12H型では24mm、L14H型では27mmの付属のスパナで固定します。(図7)

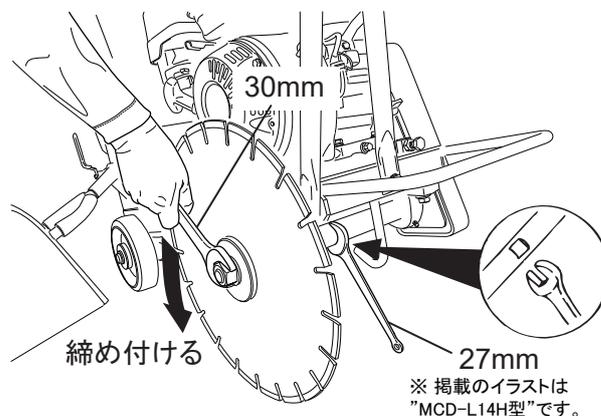


図 7

- ブレードを締め付け後にブレードカバーを取付けてください。散水ホースを取付けたらブレードカバー側で水が出るかを確認してください。

7.6 機体の昇降方法

- 機体の昇降には中央の昇降ハンドル(クランクハンドル)を使用します。(図8)

- 昇降ハンドルの手前にある昇降ロック用ツマミを上方向に引き90度廻して浅い溝にセットすると、昇降ハンドルのロックが解除され廻すことができます。
- 機体を下げる(切込み時)には昇降ハンドルを時計(右)方向に回します。機体を上げる時は、昇降ハンドルを反時計(左)向に回します。
- 切削深さが決定したらツマミを深い溝の方へセットしてください。機体の上下がロックされます。

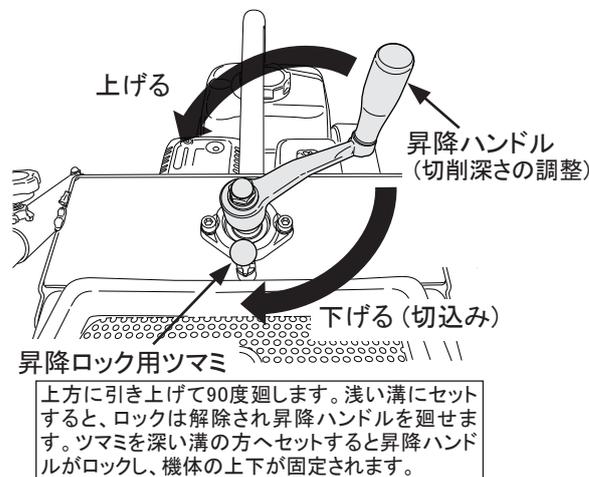


図 8

7.7 駐車ブレーキ

- 左側（操作者側から）の後車輪には駐車ブレーキが付いています。ノブを右（時計方向）に回すとブレーキがかかり、左へ回すとブレーキが解除されます。作業前にはブレーキを解除してください。（図9）

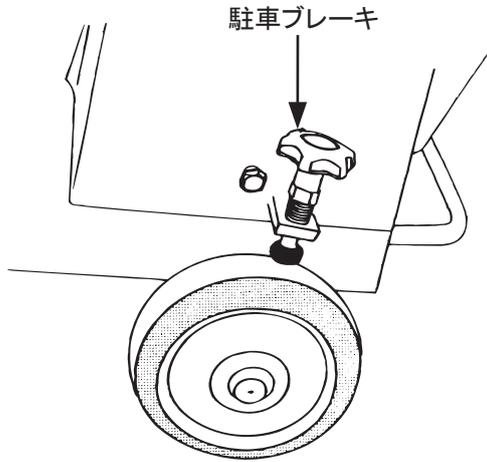


図 9

7.8 切削深さの読取方法

- 切削深さは、回転の中心であるブレード軸の真下で地表に接した位置（読取位置）からブレードの先端である外周までの距離です。アスファルト又はコンクリートをダイヤモンドブレードで切り込んだ時に、ブレードの側面には回転の筋跡（筋の軌跡）ができます。切削深さの読み取りは、読取位置にある筋の軌跡を辿ってブレードカバーに貼り付けられたゲージにて外周との距離を読み取って行います。（図10）

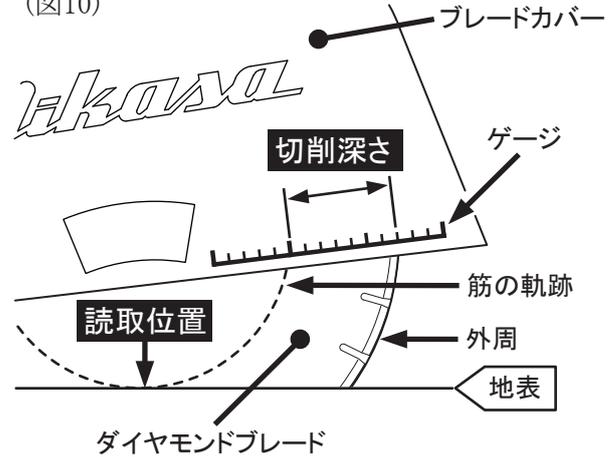


図 10

8. 運転

8.1 始動

1. 燃料コックレバーを”出”の位置に合わせます。（図11）

警告

エンジンの排気ガスには一酸化炭素が含まれていて大変危険です。屋内や換気が悪い場所では使用しないでください。

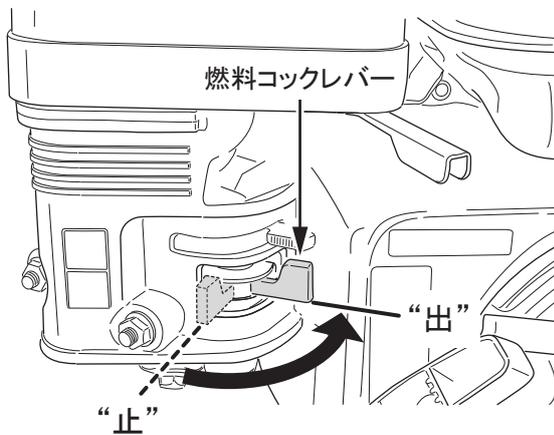


図 11

2. 寒い時やエンジンがかかりにくい場合は、チョークレバーを”始動”の位置にします。エンジンが暖まっている場合は必要ありません。（図12）

注意

うまく始動しなかった場合は、いつまでもチョークを”始動”の位置のままにしておきますと燃料の吸い込み過ぎとなりますので半開にしてください。

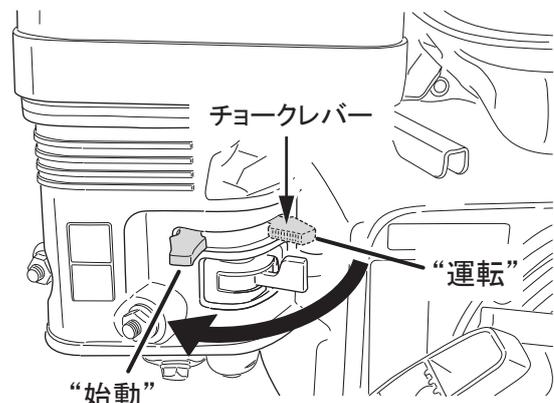


図 12

3. スロットルレバーを高速(全開)側へ約1/3の位置に動かします。(図13)

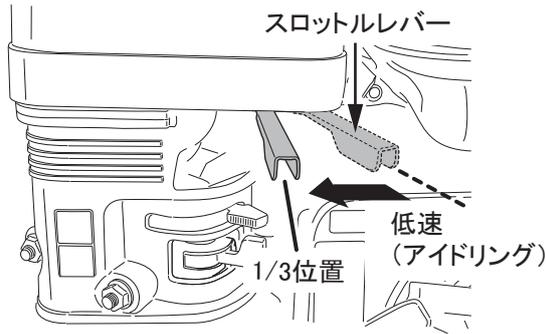


図 13

4. エンジンスイッチを“ON(運転)”の位置にします。(図14)

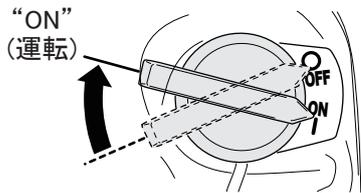


図 14

5. リコイルスターターの始動グリップを握り、少し引くと重くなる場所(圧縮点)があります。そこから勢い良く引張ってください。この時、ロープを引張りすぎるとロープが切れたり抜けてしまう恐れがありますから注意してください。(図15)

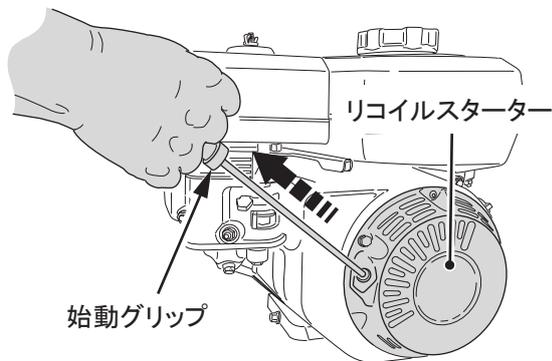


図 15

6. チョークレバーを”始動”にしている場合は、エンジン回転が安定することを確認しながら徐々に”運転”の位置に戻します。(図16)

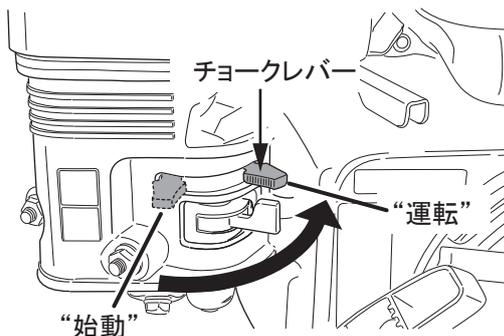


図 16

7. エンジン始動後は、必ず2~5分程度低速で暖機運転を行います。特に寒冷時には必ず実行してください。

注意

エンジンが始動したら、始動グリップは引ききった位置で離さずにゆっくり握ったままで戻してください。また、始動後は始動グリップを引かないでください。故障や破損の原因になります。

危険

エンジンの始動と同時にダイヤモンドブレードが回転し始めますので、接触しないよう充分注意してください。

8.2 作業

1. 切削ゲージを切断ラインに合わせます。機体を起こすと切断ラインに合わせ易くなります。(図17)

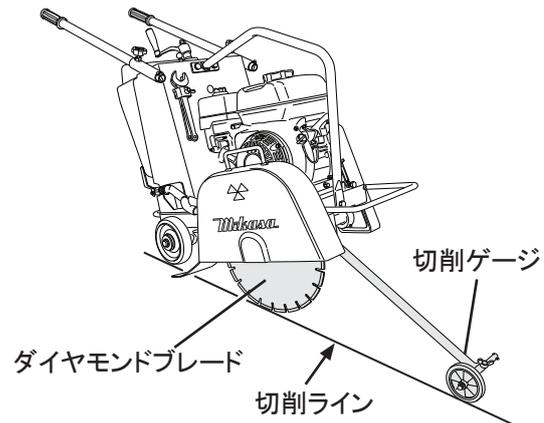


図 17

2. 水コックを開いてダイヤモンドブレードに水(冷却水)を噴射させてください。冷却水は少なくとも5~6L/分位必要です。目安としては、噴霧状に飛散している位であれば充分です。(図18)

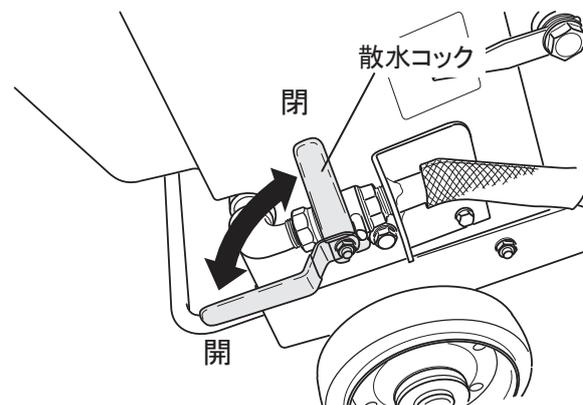


図 18

注意

水タンクへ入れる水は水道水を使用してください。古い水や川や池の水を使用しますと、ゴミなどの不純物で散水パイプやブレードカバーが詰まる場合があります。

3. スロットルレバーを徐々に開き、エンジン回転数を高速にセットします。(図19)

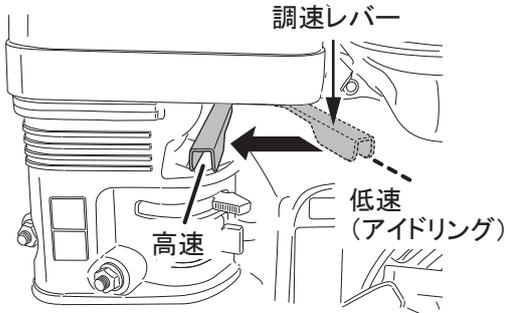


図 19

4. 本機を下降させてダイヤモンドブレードで切削を始める時は、本機中央にある昇降ハンドルを右方向(時計廻り)に回します。(11ページの「7.6 機体の昇降方法」を参照)
 - a. 切削作業ではダイヤモンドブレードと地面との抵抗によって負荷がかかり、エンジン回転数が低下したり、エンジンが停止する場合があります。

- b. エンジンの回転が低下しすぎない速度で切り込んでください。所定の切削深度に達しましたら、昇降ハンドルの手前にある昇降ロック用ツマミで固定(ロック)してください。(図20)

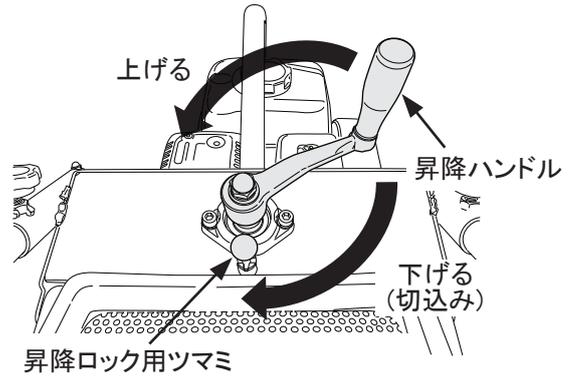


図 20

5. エンジンの回転が低下しすぎない速度で機体を前に押しながら、切削作業を行ってください。

注意

急激な切込みや切削作業はダイヤモンドブレードの破損やエンジン・Vベルト等の耐久性を損なう恐れがあります。

9. 停止

1. 切削が終了したら、昇降ハンドルを左方向(反時計)にゆっくり回して機体を上げてください。(図20)
2. 水コックを閉じて水(冷却水)を止めてください。(13ページ、図18)
3. スロットルレバーを低速にします。(図21)

4. スロットルレバーを低速にしてエンジンを冷やします。2~3分程待ってからエンジンスイッチをOFF(停止)にします。(図22)

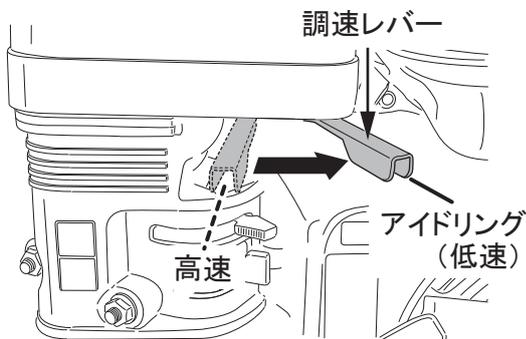


図 21

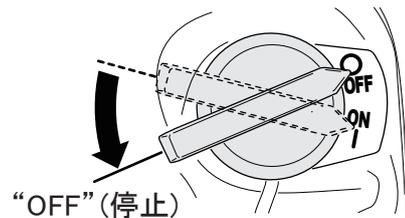


図 22

5. 燃料コックを”止”にします。(図23)

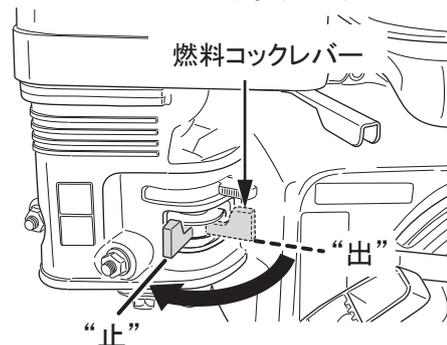


図 23

10. 輸送

クレーンによる積み降ろし作業は資格が必要です。クレーンの運転・玉掛け作業の資格がある人が行ってください。

10.1 積み降ろし

警告

- 吊フックの破損や各部のネジの緩み、脱落が無く安全である事を確認してください。
- 積み込みや運搬の際は必ずダイヤモンドブレードを取り外してエンジンを停止させ、燃料コックを閉じてください。
- 積み込みの際には必ず水タンク内の水は捨ててください。
- 吊フック以外の場所(ハンドル部など)での吊り上げは絶対に行わないでください。
- 強度が充分で、破損や劣化、型崩れの無いワイヤーロープを使用してください。
- 安全のために必要以上の高さには吊り上げないでください。また、吊り上げた機械の下には絶対に人や動物が入らないようにしてください。

1. 本機の積み降ろしは必ずクレーンで行ってください。
2. 積み降ろし作業時は必ず責任者を定め、責任者の指示に従って作業してください。
3. 本機を吊上げる場合は必ず吊フックを使用し、吊フック以外の場所(ハンドルやボディ等)で作業を行わないでください。

4. 本機を下す場合は必ず後輪が先に接地するように、ゆっくりと下してください。
急激に下した場合は、前車輪が取り付けられている昇降フレームが変形や破損する場合があります。

注意

道板(歩み板)を使用している積み降ろしは大変危険です。行わないでください。

10.2 運搬

警告

- 運搬の際には必ずダイヤモンドブレードを取り外してエンジンを停止させください。
- 燃料タンクから燃料を全て抜いて、燃料コックを閉じてください。
- 運搬の際には必ず水タンク内の水は捨ててください。
- 動いたり倒れたりしないように、しっかりと固定してください。

1. 雨天の中で運搬する場合は、燃料タンクに水が入らないように燃料タンクをカバーでおおってください。
2. 運搬時にロープ等で固定する場合は、部品に力が加わって変形しない場所を選んでください。

11. 保管

1. 各部の汚れを水洗いで落としてください。

注意

燃料タンクやエアークリーナーに水が入らないように注意してください。

2. 水タンクやホース内に残った水を抜いてください。
3. 残った水分を拭き取って、良く乾かしてください。
4. 各部のピローブロックやグリスニップルにグリスを給脂してください。特にブレード軸のピローブロックには毎使用後に必ず給脂してください。
5. 必ず屋内で直射日光を避けた湿度の低い場所に保管してください。

●長期保管の場合

1. 燃料タンクだけでなく、燃料パイプやキャブレターからも残った燃料を抜いてください。
2. 各部のグリスアップ(グリス給脂)とエンジンオイルの補給を行ってください。
3. リコイルスターターを引いて、軽く圧縮のあるところまで引いてください。
4. エアークリーナーとマフラーを覆ってください。
5. 後車輪に輪止めをしてください。

12. 定期点検と調整

各部点検スケジュール表

点検時期	点検箇所	点検項目	油脂類
毎日(作業前)	外観	傷、ゆがみ	
	燃料タンク	漏れ、油量、汚れ	ガソリン
	燃料系統	漏れ、油量、汚れ	
	エンジンオイル	漏れ、油量、汚れ	エンジンオイル
	エアクリーナー	スポンジの埃	
	ブレード	傷、破損	
	昇降装置	機能確認、油脂	グリス
	一点吊フック	破損、傷、ボルト・ナットの緩み・脱落	
	ボルト・ナット類	緩み・脱落	
20時間毎	エンジンオイル	初回のみ交換	エンジンオイル
100時間毎	エンジンオイル	交換	エンジンオイル
	昇降ネジ(図24)	傷、曲がり、給脂	グリス
	昇降ハンドル基部	傷、曲がり、給脂	グリス
	ピローブロック(図25)	給脂	グリス
200時間毎	Vベルト	傷、張り	
2年毎	燃料パイプ類	交換	
不定期	エアクリーナーエレメント	交換	
	ピローブロック	磨耗、異音、がたつき	

エンジン関係の点検及び整備の詳細につきましては、付属のエンジン取扱説明書をご覧ください。

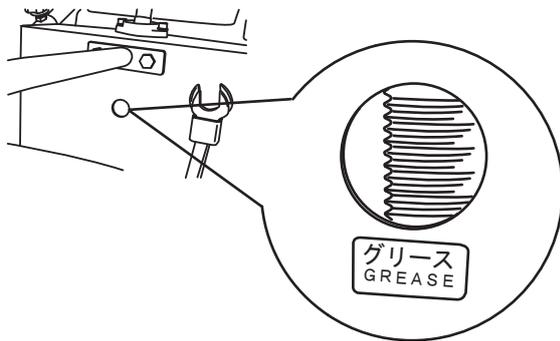


図 24

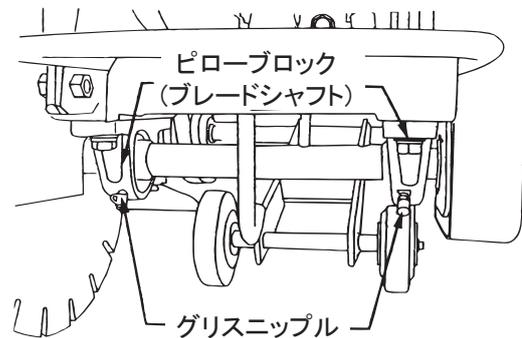


図 25

注意

- 上記は標準状態での点検時間です。使用条件により内容が異なりますのでご注意ください。
- ボルト・ナット類のゆるみ点検や増し締めなどを行う際には、下記の「締め付けトルク一覧表」をご参照ください。

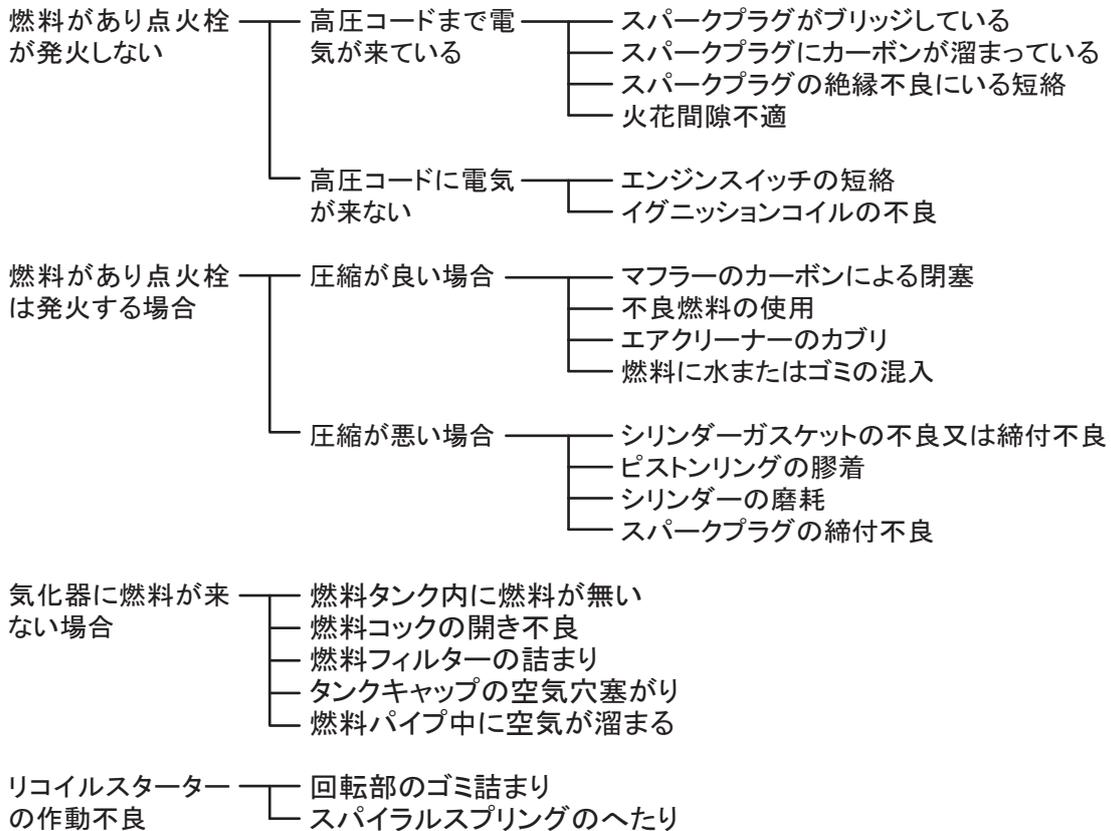
締め付けトルク一覧表 (単位: kgf・cm 1kgf・cm=9.8N・cm)

		ネジ径							
		6mm	8mm	10mm	12mm	14mm	16mm	18mm	20mm
材 質	4T(SS41)	70	150	300	500	750	1,100	1,400	2,000
	6-8T(S45C)	100	250	500	800	1,300	2,000	2,700	3,800
	11T(SCM3)	150	400	800	1,200	2,000	2,900	4,200	5,600
	相手材質がアルミニウムの場合	100	300~350	650~700	(本機に使用しているネジは全て右ネジです。)				

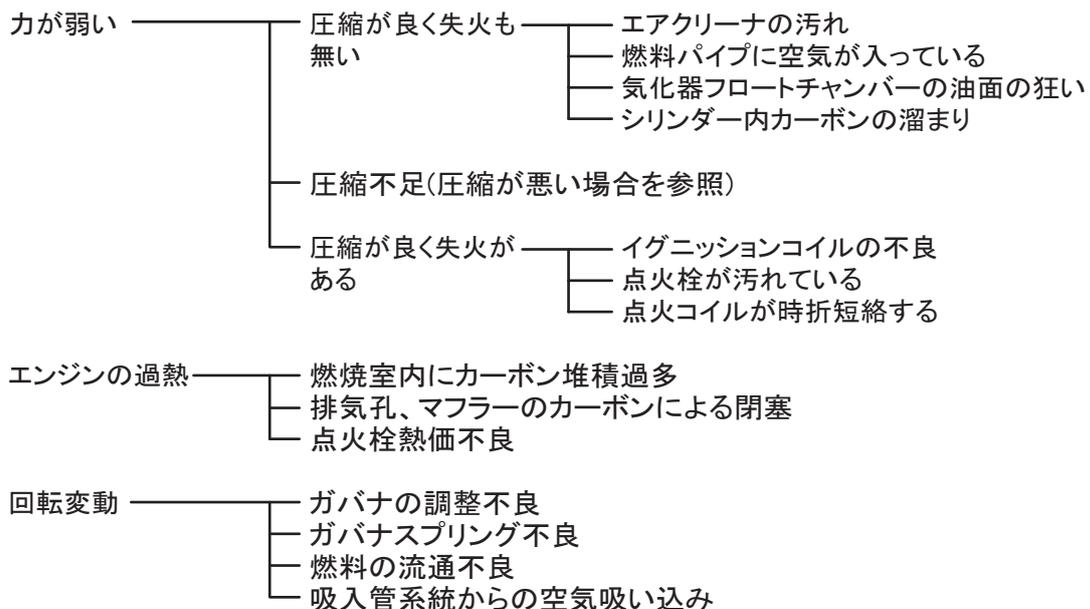
13. トラブルシューティング

13.1 エンジン

始動不良

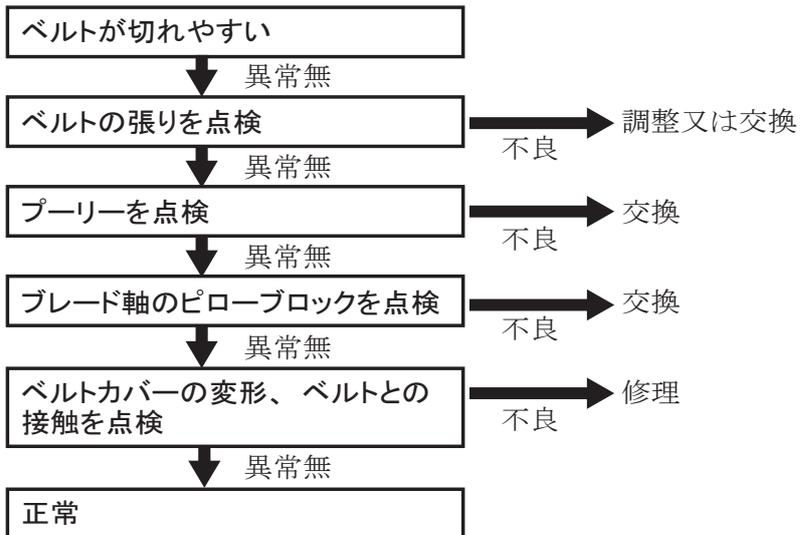
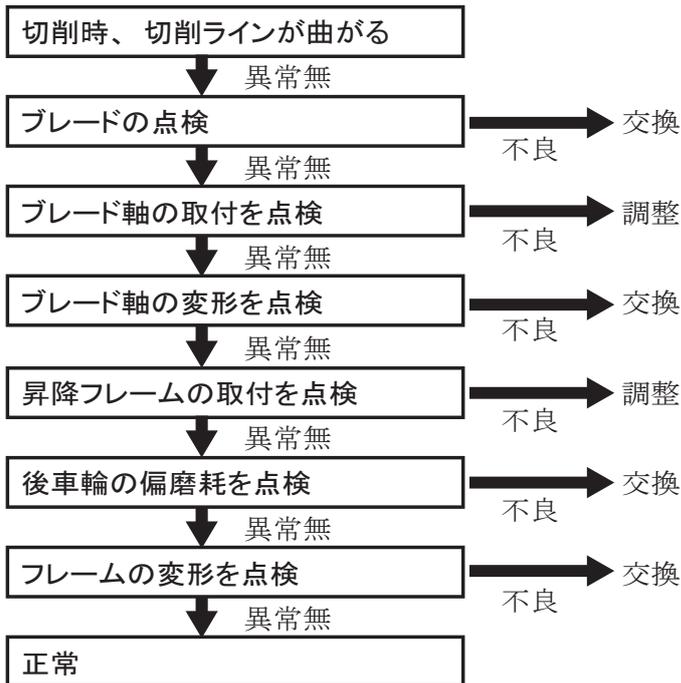


運転不調

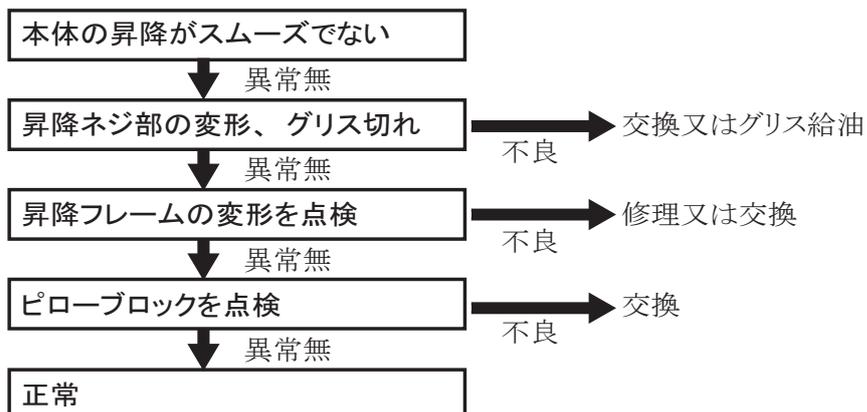


13.2 本体

ダイヤモンドブレード関係



昇降関係



Mikasa

MIKASA SANGYO CO., LTD.

1-4-3, Kanda-Sarugakucho, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0064, Japan

三笠産業株式会社

〒101-0064 東京都千代田区神田猿楽町1-4-3

修理に関するお問合せ

TEL 048-734-2402 FAX 048-734-7678

部品に関するお問合せ

TEL 048-734-2401 FAX 048-736-6787

その他のお問合せ

info@mikasas.com

Web パーツリスト

<https://www.mikasas.com/MIKASA/index.html>



PRINTED IN JAPAN